

日本災害看護学会 令和 6 年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024 年 12 月 3 日（火）

活動隊員：登谷 美知子

1. 活動期間

2024 年 11 月 26 日（火）8 時 30 分～16 時

2024 年 11 月 28 日（木）8 時 30 分～15 時

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町 1 字 78 番地）

3. 石川県珠洲市の被害状況（11 月 28 日 14 時 00 分現在 石川県庁情報）

人的被害 死者：137 人 うち災害関連死：40 人 重症者 47 人 軽症者 202 人

住家被害 全壊 1745 半壊 2075 一部損壊 1752

4. 避難所の状況

【大谷小中学校避難者数】

11 月 26 日（火） 避難所登録数 27 人

11 月 28 日（水） 避難者登録数 27 人

5. 支援活動の実際

【健康観察】

1) 避難者日中在住の方の健康状態ヒアリング

2) バイタルサイン測定、健康調査・相談の実施

・11 月 21 日から新型コロナウイルス感染症陽性者に対し隔離が実施されていた。発症当初より発熱はみられなかったが 21、22 日は倦怠感も強く食欲もないため終日寝ていたとの話であった。26 日 10 時現在では、鼻づまり以外の症状はなく倦怠感も消失されていた。本人は 26 日に隔離解除できるという認識を持たれていたことや、隔離による精神的負担感が強いことを考慮し隔離解除とした。併せて鼻詰まりの症状が治まるまでは、日常生活での注意点などをお伝えし守っていただくよう説明した。

・咳嗽症状の方（1 名）あり、日中や夜間に時々咳嗽があるとのことであったが、発熱や鼻水などその他感冒症状はなく食欲や活気もあり、また本人の希望により市販薬を 1 日分お渡し様子を見ることにした。

【環境整備】

1) 清掃

朝は避難所利用者の方も掃き掃除やごみ収集など一緒に実施した。玄関、トイレのドアノブなど手に触れやすいものなどの拭き掃除も実施するとともに、手洗い・手指消毒の徹底も促していった。

2) 支援物資の整理

支援物資は定期以外に民間の団体などからの提供もあり、物資の整理を行った。また、廊下にあった衣類が段ボールに入ったままの状態であったため整理した。

6. 土砂災害地区全戸訪問

生活サポートセンター担当者、金谷氏（学会プロジェクトメンバー・28日）と協働し巡回

・11月26日（火）大谷地区2名（大谷町1名、赤神町1名不在）

・11月28日（水）大谷地区4名（片岩町4名 内不在3名）

併せて2名の方とお話をする事が出来た。土砂災害後の罹災証明の申請は済まされていた。

7. 大谷小中学校避難所イベント

11月26日（火）13時00分 - 15時00分

嚙下体操（登谷）+クリスマス飾り作成（ピースボート災害支援センター PBV）参加者14名

ビデオ視聴しながら嚙下体操を実施した（写真1）。時々むせることがあるという意見もあり、自宅でもできるよう、首回り、肩、肩甲骨をほぐす体操などわかりやすく説明した。また口周りの運動にパタカラ発声練習を行った。その後ランチルームへ移動し、クリスマス飾りつけ作業を行った。紙コップ、アルミホイル、リボン、シールを使い、ベルを作成した（写真2）。

8. 支援活動を通しての所感と課題

避難所内の廊下に支援物資（衣類）の段ボールが積まれたままであった。支援物資は1週間に1回配給されるが、その他個人で持ってこられる方もおり断ることが出来ないことが悩みであるという話も出てきている。応急仮設住宅集会所に運ぶと集会所が倉庫になってしまうと懸念されていた。季節に合わない物資も見受けられ、被災者のニーズに合わせた支援物資が望まれる。今後支援物資配給のあり方が課題である。

全戸訪問では、60歳代男性で、地震により自宅が一部損壊であったため、地元に住み続ける予定で修理したが、土砂災害に見舞われ、更に長期避難指示のため地元を離れなければならなくなった方とお話することが出来た。以前は意欲もあったが、今回の土砂災害後は自宅再建する元気が出ないと心情を吐露されていた。2重災害に遭われた被災者の心理的影響の大きさをあらためて感じた。今後も巡回訪問含め長期的な関わりが重要である。



写真1：嚙下体操前の説明を聞いている場面



写真2：
クリスマスツリーの飾り付けの披露